

第1学年8組 道徳指導案

- 1 主題名 きまりを守ることの大切さ〔内容項目C-（10）：遵法精神〕（1時間完了）
〈資料名 「二通の手紙」 出典：私たちの道徳（文部科学省）〉

2 ねらい

長年まじめに働いていたが、幼い姉弟の「動物園に入りたい」という願いを叶えるために、規則を破って入園させてしまった主人公の迷いや葛藤を考えることを通して、法やきまりを守ることで自分たちも守られていると感じ、きまりは自分たちのよりよい生活のためにあることを理解して、進んできまりを守っていこうとする道徳的実践意欲を高める。

3 ねらいとする道徳的価値

人はみな、何らかの集団に属しながら生活している。多くの中学生は、人が社会の一員として生活しているということを理解し、集団生活においては「規則やルールを守らなければならない」という規範意識を高めつつある。しかし、一方で規則やルールを自らの自由な行動を制限するものととらえ、それらに反発したり、自分勝手な判断や一時の感情で、破ったりする生徒もいる。この資料を通して、規則やルールの考え方の根底には、優しさや思いやりといった人として忘れてはならない人間尊重の精神が含まれているということに気づかせ、よりよい社会や人間関係を築くために自ら進んできまりを守っていこうとする気持ちを高めたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

（1）学級について

本学級では、これまでの道徳の授業で、全員発言を目指す態度と、どんな意見でも受け入れ、さまざまな立場の意見があることを知り、それらを通してあらためて自分の考えを深めるという力を育ててきた。学級には、穏やかな生徒が多く、制服、校則、教科担任制、部活動といった中学校のきまりや活動に慣れ、落ち着いて学校生活を送っている生徒が大半である。

生徒たちは、規則を守らないといけないということはよく分かっている。しかし、漠然とそう思っているだけで、なぜ守らないといけないかということまでには考えが及んでいない。また、授業中に大声で友達に話しかける、提出物の期限に遅れる、自分の当番の仕事をやらずに遊ぶなど、自分勝手な行動でまわりに迷惑をかけてしまう生徒も少なからずいる。

この資料では、日々の小さな積み重ねでまわりの信頼を得ていながらも、ふとしたことから規則違反を犯してしまう主人公の気持ちに共感しつつも、個人の自由と集団生活の関係性を考え、規則を破った場合の罪の重さや、ルールやマナーを守ることが互いに安心して生活するための基盤であることを認識させたい。

（2）抽出生徒について

①抽出生徒Aについて

Aは、とても明るくユーモアがあり、まわりを笑わせるのが得意である。一方で、落ち着きがないところがあり、授業中に大声で私語をすることもある。Aは、まわりからの注意を受けて反省し、自分を改めようとする姿勢はもっているものの、楽なほう、楽しいほうに流される傾向がある。本時では「お母さんも姉弟も喜んでいるのだから、元さんはよいことをした」という考えをもつことが予想される。規則に関しては、「今からしっかりした生活態度を身につけるために規則が存在し、その練習の場が学校だ」と考えている。意識は高いが、その意識や気持ちに行動がなかなか追いついてこない。この資料を通して、規則が存在する意義を考え、自他のよりよい生活を保障するためにきまりがあり、それを守っていこうとする気持ちを高めたい。

②抽出生徒Bについて

Bは、運動が得意で、足が速く、ピアノを弾くこともでき、さまざまな場面で他に抜きんでの活躍を見せている。穏やかな性格でありながらリーダーシップを発揮でき、前期では級長を務め、悪いと思うことに対しては毅然とした態度でまわりに接した。学級生活の向上に貢献し、多くの活躍をするBであるが、学級をいい方向に導きたいと思う気持ちや、「規則は守らなければ」という責任感が強すぎるあまり、指示や思いを伝える際にきつい言葉遣いになってしまうことがある。この資料を通して、規則を守ることは困難が伴うことがあるけれど、それでもやはり規則はみんなのために存在するというところにあらためて気づけるようにしたい。そして、今までの自分の行動に自信をもち、よりよい学校生活のためにルールを確実に守っていこうという気持ちを高めたい。

5 資料について

(1) 資料の概要

動物園の入園係だった元さんは、入園終了時刻を過ぎて入口に来た「小学校3年くらいの女の子と3、4歳くらいの弟」を、「今日は弟の誕生日だから」と今にも泣き出しそうな姉の言葉に心を動かされ、親の同伴がないことも承知の上で入園させた。閉園時刻になっても二人が出てこないことに園内は騒然となったが、辺りが暮れかかった頃、雑木林の中の小さな池で遊んでいた二人が無事発見された。数日後、姉弟の母親から「主人が病気に倒れた後、自分が働きに出ることになり、構ってやれなかったが、あの子たちの夢を大切に思って、わたしたち親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のことは、一生忘れることはできないでしょう。ありがとうございました。」という感謝の手紙をもらう。

その翌日、元さんは、もう一つの手紙である「解雇通知」をもらう。元さんは、二通の手紙を机の上に並べて、「この二通の手紙のおかげでまた、新たな出発ができそう」と晴れ晴れとした顔で職場を去って行った。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①資料との対話をさせるための手だて

資料が長いため、生徒が内容理解だけに集中することがないように、場面ごとに写真や絵を用意し、提示していく。資料の前半（「机の上の電話のベルが鳴った。」まで）では、姉弟を動物園の中に入れた時の元さんの思いと、事務所で連絡を待つ元さんの思いが大きく異なることを押さえ、そのときの元さんの迷いや判断をより深く感じとれるようにする。資料の後半では、元さんの判断が解雇処分につながったことを確認する。長年まじめに勤務し、退職後も働かないかともちかけられるほど信頼されていた元さんが、規則を破って姉弟を入園させるまでの心情を共感的にとらえるなかで、入園に関する規則は来園者の安全を守るために存在するのであり、規則を守ることで自分たちも守られているということに気づかせる。

②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

中心発問で「規則に反して姉弟を入園させた元さんをどう思うか」と問いかけ、元さんの判断に対して「弁護（よい）」と「批判（よくない）」の立場をネームプレートと色カードを使って明確に示し、その理由をワークシートに記入させる。まず同じ立場同士で相互指名をし、自分の考えに対して自信を深めたところで、反論や異なる立場の意見を発表させる。友達の意見で「なるほど、そういう考えもあったのか」と気づかされることはなかったか確認し、生徒の考えをゆさぶりたい。授業の最後に、ふり返りの時間を十分にとってじっくり記述することで、「きまりはなぜあるのか」について考えを深め、よりよい社会や人間関係の構築のためにこれからも進んできまりを守って生活していこうとする心情を育てたい。

6 板書計画（44ページ参照）

7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5 10	<p>○資料の前半部分の範読を聞き、登場人物を確認する。</p> <p>どうして元さんは、姉弟を入園させたのだろう。</p> <p>○話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">毎日来ていたのに入れないのはかわいそう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">姉弟を喜ばせたいと思ったから。(①)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">弟を思う姉の気持ちに感動したから。</div> </div> <p>事務所で連絡を待つ元さんは、どんなことを考えていたのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どうか、2人とも無事でいてほしい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">入園させなければよかった。(②)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">みんなに迷惑をかけて申し訳ない。</div> </div>	<p>※資料前半の内容を確認し、元さんは勤勉でまじめな性格であることをおさえる。</p> <p>※基本発問は生徒の発言の機会を増やすために、口頭での発表とする。</p> <p>※姉弟を入園させたとき、事務所で連絡を待っているときの元さんの気持ちが大きく異なっていることをおさえる。元さんの迷いについてより深く考え、中心発問につなげられるようにする。(①②C:気づかせる)</p>
20	<p>○資料の後半部分の範読を聞く。</p> <p>規則を破ってまで姉弟を入園させた元さんの行為をどう思うか。</p> <p>○話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">弁護・よい(③)</p> <p>動物園に入ることができて、姉弟は喜んでいたので、よいことをした。</p> <p>母親から感謝の手紙が届いたのだから、よいことをした。</p> <p>結局、事故は起きず、姉弟は無事だったから問題ない。</p> <p>毎日来ていた子どもたちの願いをかなえてあげた。</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">批判・よくない(④)</p> <p>規則を破ることは、どんなことがあってもよくない。</p> <p>無事だったからよかった。でも姉弟が事故にあっていたら大変。</p> <p>ルールはルール。元さんは間違っている。</p> <p>安全を守るためのルールは、どんな時にも守らなければならない。</p> </div> </div>	<p>※弁護と批判の二つに価値観を類別して板書する。黒板にはネームプレート、机には色カードを使って立場を示して、生徒の考えを整理する。</p> <p>※弁護に偏った場合は、2通目の手紙(解雇通告)を取り上げ、「元さんや動物園にとって大切なことは何かな」と投げかける。(③E:ゆさぶる)</p> <p>※批判に偏った場合は、1通目の手紙(母親の感謝の手紙)を取り上げ、「元さんの判断がこの家族にどんな影響を与えたかな」と投げかける。(④E:ゆさぶる)</p> <p>※弁護論をとるであろう抽出生徒Aを指名し、発表させる。姉弟の「動物園に入りたいたい」という強い気持ちに応えた元さんだが、今まではままりを忠実に守っていて、ここで葛藤したこと気づくようにする。(③C:気づかせる)</p> <p>☆話し合いを通して、元さんの葛藤に迫ることができたか。(話し合いの様子)</p>

40

元さんは解雇されたのに、どうして晴れ晴れとしていたのだろう。

自分の行動の責任をとり、最後までその役目を果たしたから。(5)

規則を破ったのは自分だから仕方ないと、この結果に納得していたから。(6)

無責任な行動だったが、姉弟を喜ばせることができて満足だから。

○振り返りをする。

45

「きまり」とはなんだろうか。

自分たちの安全な生活のためにあるもの。

みんなが安心して暮らすためにあるもの。

どんなときも守らなければならないもの。

きまりは自分たちの生活を守るためにあることを理解し、これからもきまりを大切に生活しようとする気持ちを高めた姿

※元さんは解雇処分を「新たな出発」だと前向きにとらえていることを確認する。

※⑤の意見をもっている生徒を意図的に指名し、規則がある意味やそれを破った場合の責任について考えるようにする。(5C:焦点化する)

※⑥の意見をもつであろう抽出生徒Bを指名し、発表させる。Bの意見に対して「そうだね、ではなぜ規則はあるのかな」と問いかけ、その答えを肯定的に受け止める。

(6B:認める)

☆きまりを守ることの大切さに気づき、自らもそうしようと思えることができたか。

(ワークシート)

授業の視点

- ① 中心発問「規則を破ってまで姉弟を入園させた元さんをどう思うか」について立場を明確にし、考えたり対話をしたりしたことは、ねらいに迫るために有効であったか。
- ② 「元さんや動物園にとって大切なことは何か」「元さんの判断がこの家族にどんな影響を与えたか」という補助発問は、生徒の考えにゆさぶりをかけ、個の考えを深めるうえで有効であったか。

板書計画

